

目的

口腔ケアジェル「オーラルピース クリーン&モイスチュア 販売元（株）フードケア」（図1）に含まれる抗菌ペプチドネオナイシンーeは、う蝕、歯周病関連菌、真菌に有効であると報告されているが、臨床的な効果は明らかにされていない。今回口腔カンジダ症の真菌と舌苔に対するネオナイシンーeの効果について明らかにする事を目的に口腔ケアジェルの使用前後でカンジダ培養検査と舌苔付着量を評価し、比較検討を行った。

対象と方法

【対象】歯科受診患者で軽度の白色偽膜、または口腔粘膜の紅斑、厚みがある舌苔を認めた真菌培養検査で陽性反応の入院患者11名（男性8名 女性3名 平均年齢 74.7±12.9歳）

除外対象 著しく全身状態が悪い患者 検査実施が困難な患者 抗菌薬、抗菌性含嗽薬、抗菌性歯磨剤使用患者 使用期間中に抗菌薬やステロイドなどの免疫抑制剤の投与内容に変更があった患者 重度の口腔カンジダ症を呈しており早期の抗真菌薬の対応が必要だと歯科医師が判断した患者

【倫理的配慮】本研究は浜松市リハビリテーション病院倫理委員会（18-38）で承認された

【介入・評価の流れ】

開始前

●カンジダ培養検査（+）

●TCI評価

口腔ケアジェル使用

2週間後

●カンジダ培養検査

●TCI評価

口腔ケアジェル使用

3週間後

●カンジダ培養検査

●TCI評価

口腔ケア：口腔清掃用具・主となる清掃実施者は開始前と同条件 ケア手順は図4のチェック表を用いて統一し介助で行った 歯科衛生士の介入： 開始前と介入頻度は変えず、必要頻度で介入 清掃実施者へケア方法を指導

【測定評価項目】

○カンジダ培養検査

測定部位と方法：綿棒で舌背中央部分を5往復擦過しカンジダデテクター（図2）の寒天培地に塗布 採取後の培養地は37度設定の恒温槽に48時間好気培養し真菌数（CFU）計測を行う 測定日：開始前、2週間後、3週間後

○舌苔付着量の評価（TCI）（図3）

評価実施者：歯科衛生士 評価日：開始前、2週間後、3週間後

【統計分析】

使用開始前と2週間後、3週間後の3群の比較（11例）：Friedman検定

結果

表1 対象患者の口腔内・清掃能力・摂食状況

対象者	義歯	残存歯（本）	う蝕歯（本）	歯肉炎※1	清掃能力※2	うがい	舌ブラシ	経口摂取
A	なし	7	4	中程度	全介助	不可	なし	3食
B	あり	4	1	軽度	全介助	不可	なし	なし→3
C	なし	27	2	軽度	全介助	不可	なし	3食
D	なし	11	8	中程度	全介助	不可	使用	なし
E	なし	18	1	中程度	半介助	可	なし	3食
F	あり	0	—	—	全介助	不可	なし	なし
G	なし	26	1	軽度	全介助	不可	使用	なし
H	なし	5	2	中程度	全介助	不可	なし	なし
I	なし	13	3	軽度	全介助	不可	なし	2～3
J	なし	25	0	中程度	半介助	不可	使用	3食
K	なし	0	—	—	半介助	不可	なし	3食

※1歯肉炎の評価

軽度：歯肉に多少の発赤を認めるがブラッシング時の出血はなし

中程度：歯肉の発赤を認めブラッシング時に出血を認める

重度：歯肉が発赤し歯間部の歯肉がまるみを帯びブラシがあたると容易に出血する

※2清掃能力

全介助：介助で清掃

半介助：自身の清掃後、介助による清掃

カンジダ培養検査では使用前と3週間後の比較では有意に減少した（P=0.017）

開始前と2週間後、2週間後と3週間後の比較では有意な減少は認めなかった。

TCIは開始前と3週間後の比較では有意に減少した（P=0.043）

開始前と2週間後、2週間後と3週間後の比較では有意な減少は認めなかった。

考察と結論

ネオナイシンーeは抗菌性ペプチド、ウメ果実エキスとダマスクローズ精油を組み合わせた天然由来製剤であり飲み込んでも為害性がなく、歯周病、う蝕やカンジダ症の原因菌・真菌に対し抗菌活性を発揮すると報告されている¹⁾。今回臨床研究において口腔清掃時にネオナイシンーe配合の口腔ケアジェルを2週間以上継続して使用する事で舌苔と真菌の減少により舌苔除去と口腔カンジダ症に対し有効である可能性が示唆された。

参考文献

1) 永利浩平 他：乳酸菌由来抗菌ペプチドを用いた口腔ケア用製剤「ネオナイシン®」,シーエムシー出版刊,158-160, 2019

日本老年歯科医学会 COI開示 本演題発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業などはありません

図1 口腔ケアジェル
オーラルピース
クリーン&モイスチュア
販売元（株）フードケア

図2 カンジダデテクター（亀水化学工業）

図3 TCI評価

図4 口腔ケアチェック表

図5 カンジダ培養検査結果の変化

図6 舌苔付着量の変化